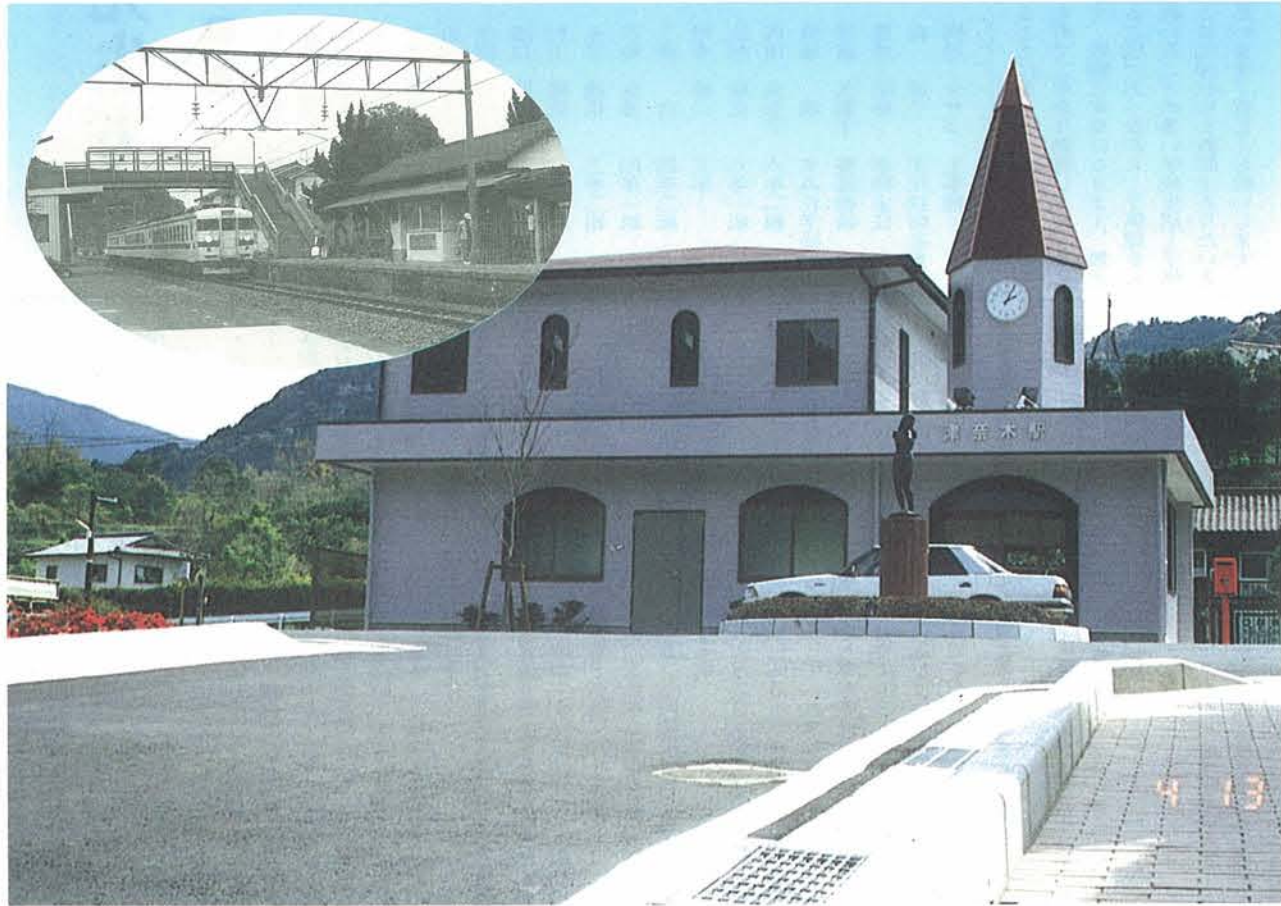


発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話(78)3111代
印刷所 旭印刷
電話(水俣)34101番

津奈木

津奈木



津奈木駅周辺の化粧直しがなされ、町の玄関にふさわしい様相を呈している。昭和一年、津奈木を通過する鹿児島本線が開通し、駅舎もでき、汽車を利用する人々が長い年月にわたり親しんできた。このたび新しい駅舎に生れかわり、昔日の感じとあである。鉄道は地方文化の開発、伝播に貢献すること大である。多くの人々が交流する新しい駅舎を起点として、本町が今後益々発展するよう願っている。

一方、先人の遺産として、今に伝えられる貴重な財産も多く残っている。これら歴史遺産を後世に伝えていくことも、大切なことであらうと思う。ところで、ものの見方、考え方も時代と共に変化していくのは当然である。新しいものの見方、考え方が社会の進歩に役立つ反面、何か価値あるものを失ってははいないだろうか。ふと思う時がある。永い間受け継いできた心の宝と、立ち止って考えて見ることも意義あることではあるまいか。(鶴野)

一言

初めての農業実習

大阪市立大学のユースホステル部学生6名が内野の山口幸太郎さん宅のハウストマト栽培の実習を行なったときの体験記です。



農業実習風景

うこのでできない貴重なものでした。合宿中はずっと山口武久さんのハウストマト収穫等の作業をお手伝いするつもりでいたのですが、三月二〇日と二一日にグリーンゲイトで郷土料理フェアが開催されるということで、そちらの方も手伝わせて頂きました。フェアの初日は知らない人ばかりで緊張しました。夜の交流会では他の町の方々とも一緒に交流を深めることができ、非常に楽しい思い出を作ることができました。津奈木町では、町の人々が一体となって行事に取り組む姿勢等、都会の人間がみならうべき点が多くありました。そして、本来の目

的であった農業体験では、ミニトマトの収穫とビニールハウスの解体をさせて頂きました。山口さんは「相手が生きているだけに手をかければ応えてくれる」とおっしゃっていました。実際働いてみて仕事自体は決して楽なものではないけれども、喜びの伴うものであることがわかりました。また、これら以外にも数えきれない程の思い出と、充実した合宿ができました。最後になりましたが、愛情深く見守って下さった山口さんをはじめ、津奈木の皆さん本当にありがとうございました。

(農家の苦労がわかりました)

津奈木町に滞在した一週間で私の体験したことは、大阪で味わ



庁舎美術館 (47)

油彩「野佛」1980 境野一之作

雨に打たれようが、風に吹かれようが、身じろぎひとつせず、どっしりと構えておられるあなたは、父のようですね。

日々の苦しさを打ち明ける時、いつも優しい微笑みを浮かべ答えて下さるあなたは、母のようですね。あなたのそばに居ると、心が安らぎます。



英会話教室参加者たち

「あいさつ」言葉でも気軽に話せたら……
(あなたも挑戦してみませんか)

今年三月十日から平成六年三月まで、第二・第四水曜日に「ふれあい英会話教室」を文化センターで開催することになりました。受講者は二八名で二〇代から六〇代とバラエティーに富んでいます。指導者は津奈木中学校の塘内正義先生と藤門幸枝先生です。実施するにあたり先生方に相談したところ、快くお引受け頂きました。私達は、日常生活の中ではほとんど外国語を話す事はありません。しかし、テレビ、新聞、会議、講演会等よく外国語が出て来ます。意味が解らなかつたり、不便をあまり感じませんので聞き流してしまっています。また、外国旅行に行っても通訳の人が同行しますので、そんなに心配なく旅行ができます。本当に便利な世の中になりました。でも、人との心のつながり、ふれあいがなく寂しさを感じます。楽しみも半減してしまうのではないのでしょうか。

「あいさつ」言葉でもよいから気軽に話せたら……と思います。生きていくうえで少しでも、何かに挑戦したり趣味をもったりすることが大切だと思います。受講者の皆さん方は楽しんで頭に体操をしておられました。

町民体育祭(5種目)の日程が下記のとおり決定しました。

大会名	期 日	会 場
男子ソフトボール大会	5月16日(日)	合 総グラウンド
女子ミニバレーボール大会		B&G体育館
野 球 大会	8月13日(金) 14日(土)	合 総グラウンド
競 舟 大会	8月15日(日)	
陸上競技大会	10月10日(日)	合 総グラウンド

平成五年度 町民体育祭日程表

スポーツ安全保険に加入しましょう

町内小中学校

新しい先生方

津奈木小学校



今岡 康則

職員一覧

今年大学を卒業し、晴れて念願の教師となることができました。初めは不安で一杯でしたが、今はただ一生懸命頑張ることだけを考えています。これからは、教師という責任の重い立場に立つわけですが、子どもたちに信頼されるような教師を目指したいと思っています。



塩村 勝広



石崎 富美

津奈木小学校に勤務することになりました。学校の教師としてはもちろん社会人としてもたいへん未熟です。しかし、若さと意欲でカバーし、子どもたちと共に学んでいきたいと思っています。ご迷惑をおかけすると思いますが、ご指導よろしくお願い致します。

この四月から一年間、お世話になることになりました。これまで北町で二年余り勤務してありまして、教職三年目になります。教える立場にありながら、子供達から教わることも多い学校生活。子供と共に伸びゆく教師でありたいと思います。宜しくお願いします。



前津奈木小校長 元山 正昭

教職生活、最後の三年間を津奈木小学校長として務めさせていただき誠に有りがたう御居りました。公私共に御世話になり、心からお礼申し上げます。三年間、校訓「自主」「感謝」「忍耐」のもとに、知力・体力・精神力の向上と



津奈木小校長 松原 昭

年度末異動により二年間在籍した相良南小学校から転勤してきました。私は水俣市在住ですが、津奈木町は父の初任の地であり、母は千代出身で津奈木小学校には格別の想いを抱きます。

津奈木小学校紹介

「二十一世紀を展望して」桜花爛漫の中、平成五年度は職員二十名、児童二六八名により新学期をスタートしました。本校は明治八年創立で、過去に



平国小学校 藤原 審二

わたしの教育方針は、級訓にも掲げている「やる」とは「やる」。学習のときは学習。運動のときは運動。遊びのときは遊び。といった具合に、けじめのある全てに一生懸命になれる子どもを育てたいと考えています。



上村 みゆき

このたびの異動で、計石小から平国小へ転勤して参りました。平国は、自然に恵まれた素晴らしい所、ここに来ましたことを、大変うれしく思います。平国小の元気一杯の子どもたちと一緒に、これから頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

平国小学校紹介

本年度は、一年生十三名を迎え児童数八十九名、教職員十二名転入職員二名でスタートしました。明るく元気な一年生を迎え益々笑顔の絶えない明るい学校になりました。さて本校は、昨年から学力の充実に教職員一丸となって取り組んできました。結果として、少しづつ成果も上がっています。本年も又、全ての学力は国語教育にあるとの考えのもとに、国語を中心に据えて研究していくことになりました。

職員一覧

- 喜多 幸夫 校長
- 金子 勲子 教頭
- 津奈木 和宣 教務主任
- 原 輝智 三年担任
- 新立 利恵子 五年担任
- 山下 幸子 二年担任
- 藤原 審二 六年担任
- 上村 みゆき 一年担任
- 淵上 竜一 四年担任
- 坂本 知子 養護助教諭
- 田中 久美子 主任事務
- 村上 昭子 技師補

赤崎小学校



寺川 芳夫

海はなぜ青いの？それは空が青いから。というお話があります。ここ赤崎の印象はまさに「碧い海」でした。素晴らしい環境を生かして子どもたちがどんどん自分の力を伸ばせるようにお手伝いさせてもらおうと思っています。宜しくお願いします。



井手口 公子



赤崎小校長 赤川 一誠

「お世話になりました」今年、三月三十一日付で、教職生活三十四年間の勤めを無事、大過なく終えることが出来たことに深く感謝申し上げます。特に、教職三十四年間で、十四年間の永



前赤崎小校長 栗塚 岩雄

きに亘って、本町で指導、お付き合下さった事に対しては、一生懸命かっても御恩に報いたい気持ちでいっぱいです。町当局の教育に対するご理解、そして、明日を担う児童、生徒の将来への希望を託しての取り組みに微力ではありましたが、お手伝いできた事を誇りにしたいものです。



赤崎小校長 赤川 一誠

今回の教職員の定期異動で赤崎小学校にお世話になることになりました。赤崎小学校は日本ただ一つの海上に建てられた学校とは聞いていましたが、実際に赴任してみると

津奈木中学校



山下 博之

「ただいま」と言うべきか「お世話になりました」と言うべきか、一寸迷います。と言いますのは十年前まで十年間、津奈木小にお世話になっていたからです。津奈木町は教育予算は沢山出るところと知っていますので、教育条件の整備に力を入れたと思います。



藤原 棋聖

はじめまして。私の出身は上益城郡の清和村です。前回の八代一中に比べてとても小さな学校ですが、私の母校と同じ規模でとても愛着を感じます。中学校時代に培ったものは一生の支えになると思います。何か一つ中学校時代に打ち込んで熱中してほしいと思います。

津奈木中学校紹介



長野 由佳

この度の異動で、玉名郡の南関中学校より津奈木中学校に転勤してまいりました長野由佳と申します。常に生徒と共に学びあう姿勢でがんばっていききたいと思っております。どうぞ、よろしくお願い致します。



竹永 道子

この度、町職員として津奈木中学校へ勤務することになりました。竹永道子と申します。母校での勤務となりとても感激です。社会人一年生で何かとご迷惑をかけると思いますが、がんばっていききたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

職員一覧

- 金森 満 校長
- 本山 嵩 教頭
- 和田 邦博 教務
- 門崎 隆幸 津南
- 園村 静夫 二年担任
- 田原 正和 一年
- 井上 進 三年担任
- 塘内 正義 一年担任
- 藤門 幸枝 三年
- 木村 由美 一年担任
- 美・家

職員一覧

- 松本 広隆 三年担任
- 藤原 棋聖 二年担任
- 長野 由佳 一年
- 倉本 栄子 三年担任
- 田中 里佳 三年
- 徳尾 恵里子 保健
- 山下 博之 事務管理
- 竹永 道子 嘱託

赤崎小学校紹介

- 芹川 一誠 校長
- 坂本 純男 教頭
- 高橋 昭治 教務主任
- 古市 康子 一年担任
- 川上 圭子 二年担任
- 長船 洋子 三年担任
- 濱口 尚子 四年担任
- 寺川 芳夫 五年担任

赤崎小学校は児童数男子49名女子22名計71名の日本ただ一つし

昭和三十八年四月津奈木に町制が施行されて本年は三十年目にあたる。これを機会に公民館報のこれまでの歩みを振り返って、いろいろ話し合ってもらった。

出席者は農中三澄、谷口秀人、山下、和、鶴野慶昭の諸先生。司会は林田国男編集長。

(1)町政施行三十年にあたっての感想は。

農中 十年一日の如し。私

としてはそんなに変わって

(2)昔の館報と最近の館報とどのように変わってきたか。

農中 昭和二十四年社会教育法が制定され、社会教育主事ができた。私はそのとき任命された。そして公民館活動が始まった。その頃広報誌として公民館報が発行された。その当時はガリ版刷りで用紙一枚程度のものだった。次第に予算を増額してもらい現在に至っている。

谷口 従来のものを継承していくことを心掛けてきた。表紙の題字について変えたらとの意見も出たが、変えないでそのままであった。農中 公民館報の基礎作りは岡松壮先生で、その功績は忘れてはならない。各家庭毎に保存用に綴込表紙を配布された。それで現在でも六をあげてある。

山下 内容がマンネリ化しないように心掛け、また予算面についても配慮してきた。題字について、本年一月号から縦書きから横書きに替ったが、大きく変更するのでよい。

(4)望ましい公民館報の在り方はどうあられよいか。

津奈木町の象徴として、重盤岩上に翻る日の丸の建立にまつわる約六十年前の事実を関係者諸氏より収録しました。

時は支那事変勃発後でもない昭和八年度高等科卒業生の担任だった浪崎義松先生が、元満州国の匪賊討伐に従軍された水俣出身の永田少佐を隊長とする昭和遊撃隊の激戦の模様を台本作製し学会の出しものとして行け、その劇が最良の出来であり好評だった。その台本を永田少佐にお送りしたところ少佐はいくく感激され、武拾田を学校に寄贈されました。

その金で重盤岩に日の丸を建てようと旗は学校校医だった松本敏先生の寄贈により現在の所に建てたのが最初といわれています。

その後、昭和九年度卒業生担任田中増男先生の陣頭指揮のもとコンクリートによる基礎工事の骨材、旗竿等生徒達の手で岩の上迄運び坂口建設の故郷太郎氏により今の頑丈な掲揚台が出来ています。

それは、今の天皇陛下の御誕生を祝い旗行列・提灯行列と国をあげての行事に学校でも記念になる何かをと先生方のお茶飲み話に出たのが天草の井上龜次先生の掲揚台を永久的な基礎にしようとして工事に着手。昭和九年三月二十九日に落成しています。津奈木出身の人達は皆それぞれ故郷を思う時、重盤岩の旗を思い出し、又見上げているのです。いつ迄も大事にしたいものです。 染竹 鶴野達雄

田中増男先生の陣頭指揮のもとコンクリートによる基礎工事の骨材、旗竿等生徒達の手で岩の上迄運び坂口建設の故郷太郎氏により今の頑丈な掲揚台が出来ています。

それは、今の天皇陛下の御誕生を祝い旗行列・提灯行列と国をあげての行事に学校でも記念になる何かをと先生方のお茶飲み話に出たのが天草の井上龜次先生の掲揚台を永久的な基礎にしようとして工事に着手。昭和九年三月二十九日に落成しています。津奈木出身の人達は皆それぞれ故郷を思う時、重盤岩の旗を思い出し、又見上げているのです。いつ迄も大事にしたいものです。 染竹 鶴野達雄

公民館報 これまでの歩み

谷口 津奈木はよい所だと実感している。よそに出てみて初めて、そのよさがわかる。いろんな面で発展しつつあり、喜ばしく思っている。

山下 よそに居て、村から町になったことを知った。その時、村のままの方が粗朴さが残ってよいという感じが、一種の哀愴にも似た気持ちになったことを覚えてい



館報についての座談会

鶴野 目に見える津奈木の様子が変わった。まだ古いものもあり、それらを残していかなければならない。津奈木らしいもの等、失われているものがあるのではないかな。この機会に考えてみたいと思う。

「津奈木町誌」という書名は、すでに着手当初からきまっていたようだ。「町史」でなく「町誌」とした意図を、調理人としては次のように解している。

「史」は人君の言行を筆記する官「誌」は事実や史伝を書留めた書とある(「諸藩漢和辞典」)。津奈木にそんな偉い人がいた訳でなく、足軽以下の身分の軽い武士や農民漁民の生活ぶりを、できるだけ忠実になぞってみたい。勿体ぶった高尚な思想とか、日本をゆるがす大事件があったわけでもないで、極く平凡な、多数の方々に御登場願った。

町民の皆さんにとって、お隣り

さんであり、赤崎や平国に近い村々の人間ばかりである。せいぜい芦北郡内に住んでいた方が、ブラリと登場する。

ただ残念なことには、今の話言葉でなく、候文であるため、とっつき難い点はいない。それでも外国語ではないのだから、我慢してつき合っていたきたい。

この本のなかから、村名と名前を拾い出してみれば、貴方のご先祖さんを見つけることができるかもしれない。一人でも一軒でも多く見出しもらえば、町誌編集に携った一人として望外の喜びであり、この上ない幸せというものである。

となりてう金にかがやく 鳥井保

霜柱突き上げて咲く水仙の黄金のラッパ響り放たず 椿咲き梅桃桜つき次に春を彩る庭の華やき 宮崎優

「一口メモ」 短歌はむづかしく考えるとなかなか出来ない。良い歌を作ろうと思うのは皆同じである。よく物を見つめ己の心の動きを感じたそのものを写しだす。

町誌編集に携わって

岡松 莊一郎

津奈木町誌をいよいよ町民の皆様の手許に届ける日が近づいてきた。

岡松秋徳さん、岡松壮ほか先輩の方が昭和五三年に着手されてから既に一七年が経った。

六車町長はじめ議会、町民の皆さんの辛抱強いご支援により続けることができた。

昭和十一年に増補改訂された六車茂一郎著「津奈木郷土誌」からはや六〇年、他市町村が有能な執筆者を得て、立派な体裁の町村史が次々に刊行されているなかで、

最後尾を走ってきたのは、徳富文書ほか、町内に残されていた六車・福島その他各家に伝わる古文書があまりに豊富で、その取込みが難渋していたからであった。幸い、膨大な古文書を読みこなし、原稿用紙に書き写すという気の遠くなるような作業を農中三澄先生が続けて下さった。あとは、切り刻み、お膳に見た目よく並べさすればよいのであるが、鉋丁さばきはポット出の新米調理人であるから、味の方については自信がない。

一面の写真は館報の顔として、何を載せるか、特に気を使った。昭和三十八年、町制施行の際、町の写真を撮ることになったが、雨上がりに、泥田のようになる国道では、町らしい写真が撮れず、三回目やつと「仕方ないか」でお許しを得た。又、日の出時の写真を撮るために、津奈木太郎の旧

の編集に参加させてもらった時、玄関には、見事なシャクナゲの花が飾られていた。和室に長机が置かれ天井に、ぶら下った扇風機、厚い公民館報が印象的だった。

愛読される公民館報をと膝突き合せての討議、今も変わらない。六車町長の新年に載せられる博識なお話にも楽しみであった。或る地区では、酒を飲みながら、意見を出し合いまとめ役の方が、一面の一言に載せられたと聞く。豊かな心、心とはどこにあるのかと思う時、人と人がどう豊かに交わるか、生物から循環の大切さをもっと学び、地域の人同志が豊かな関係を作り、明るい社会が出来る様、館報の発展を期待する。

白浜美和子

後ろ手にリズムとりつつ一人踏む 吾が青麦のやわき感触 麦畝に土いれ行けば茎にふれ葉より散る露時にきらめく 寺本ツルヲ

まず咲くと聞けど吾が家の万作の開花はおそし寒の雨降る それぞれの個性のありて婦人部の役員改選困難きわむ 野田浦子

風もなく静かな庭の片隅にノールの花優しく咲けり 寒風に遥らぐはぜの木にひよ鳥の二羽飛び来たりしきに食みいる 拾年余日記を毎日付けている友の根性を吾は羨む 福田八重子

冬枯れて淋しき庭に金柑のたわわ。 一笠二句、六月十四日まで教養宛

肥後狂句

失礼な おかたい事は言はん 失礼な 一丁べらだらうそん背広 失礼な 結納中にオナラ出た ようしたもん、三ッ児も踊る遊戯会 ようしたもん 勉強せんでちや〇 ばかる 失礼な うしろ姿で美人とは 失礼な 年を聞いたらおこられた 失礼な、馬子にも衣裳ではめたくり よしたもん、モッコスに孫なつといと ようしたもん とじ蓋ちゅうが来て てくれた (次笠) ええ気色、念入れて 一笠二句、六月十四日まで教養宛



伊藤 秀志

館報編集については、編集会議で話し合った事柄を各自に原稿を依頼して書いて戴き、原稿だけ先に印刷して送り、原稿に似合った写真を撮って、校正の時に提出して印刷するのが常道だった。

津奈木の芸術を連載中、大泊の故新立初喜氏の盆栽を取材に行った折、話も弾み「明日は東京に行くんだ」と張りきっておられたのに、写真を撮ってから、六日目に急逝され、校正の時に、哀悼の記事を追記することになった。

一面の写真は館報の顔として、何を載せるか、特に気を使った。昭和三十八年、町制施行の際、町の写真を撮ることになったが、雨上がりに、泥田のようになる国道では、町らしい写真が撮れず、三回目やつと「仕方ないか」でお許しを得た。又、日の出時の写真を撮るために、津奈木太郎の旧

地域興しグループによるイベントが開かれ、まちびとこのコンサートを家族と一緒に聞かせてもらった。音楽を愛し、仕事をもち

ながら心をついに演奏に打ち込む姿、ライトに照らされた楽器はまばゆく、文化センターのいい音響で、我を忘れさせてくれた。時の流れは早いもの、最初館報

公民館報編集の思い出

ながら心をついに演奏に打ち込む姿、ライトに照らされた楽器はまばゆく、文化センターのいい音響で、我を忘れさせてくれた。時の流れは早いもの、最初館報

公民館報編集の思い出

ながら心をついに演奏に打ち込む姿、ライトに照らされた楽器はまばゆく、文化センターのいい音響で、我を忘れさせてくれた。時の流れは早いもの、最初館報